

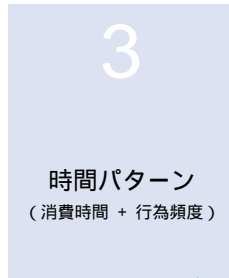
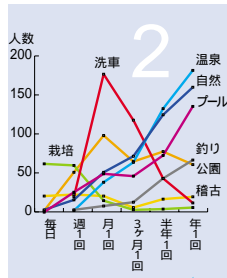
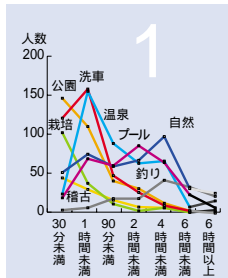
# データで読む水の文化 水にかかわる生活意識調査から

当センターでは、毎年6月に「水にかかわる生活意識調査」を東京、名古屋、大阪の約600名を対象に実施し、7月にその結果を公表しています。これまでの8年間の調査結果はセンターホームページでご覧いただくことができますが、このコーナーでは、ホームページに盛り込むことのできなかつた話題をご紹介します。

## 「水に接する行動」の時間グラフをつくってみました

2002年から、「水に接する行動」にどの程度の時間を割いているかを尋ねる質問を新たに加えました。すでに公表している「洗濯、入浴、掃除、トイレ」などの日常行為の他にも、次の8つの行為についても調べています。

1. 温泉に入る
2. 海や川など自然の水に接する（海水浴、川遊び、潮干狩りなど）
3. プールで泳ぐ、運動する、遊ぶ
4. 釣りをする
5. 自家菜園・レンタル農園での農作業
6. お茶、お花、陶芸などの水を使う趣味や稽古事（茶道、華道、陶芸など）
7. 自家用車の洗車（洗車用機械での洗車も含む）
8. 噴水や流水など公園や街中の水に接する



今回は、この8つの「水に接する行動」を、「水に接する1回当たりの時間」と「年間でその行動を行う頻度」から分類してみましょう。

図1：「水に接する行動」 最近行った一日を思い出し、何分ぐらい時間を割いたか答えてください。

図2：「水に接する行動」 1年間において、どの程度の頻度で行っていますか。

図3：「水に接する行動」の「時間パターン」(消費時間+行為頻度)

まず、それぞれの行為に、どの程度の『時間』をかけているのでしょうか(図1)。「自然の水に接する」人が万遍なく広がっていることがわかります。一方「温泉」などは、約4割の人が30分から1時間の入浴時間となっていますが、2時間以上お湯に浸かっている人もかなりいます。

それでは、時間だけではなく『頻度』を見てみましょう(図2)。

「プール」「自然」「温泉」は「年1回」が一番多く、ほぼ同じ傾向ですが、「洗車」「公園や街中で水に接する」とは異なります。さらに、「釣り」「稽古」とも違うことがわかります。

さて、『時間』や『頻度』を個々に見るだけではなく、両方を組み合わせた『時間パターン』を描くとどうでしょうか(図3)。

「釣り」のように「頻度は低い」が、いったん遊ぶときは時間をかけるものもあれば、「農作業」「稽古事」のように「日常的だが短時間」というものもあります。さらに、「洗車」「公園」はその中間です。

このように水に接する行為を「時間パターン」で見ると、行為の差が一目瞭然になります。このデータは都市部の暮らしを強く反映していますが、おそらく、海辺や山間部など地域による時間パターンの差もあることでしょう。

なぜこのような差が生まれるのか？ ライフスタイルの調査は、この問いから始まります。

温泉  
自然  
プール  
釣り  
稽古  
栽培  
公園  
洗車

温泉  
自然  
プール  
釣り  
稽古  
栽培  
公園  
洗車

## 水の文化14号予告

特集「京都の謎」(仮)

知られざる水の都市・京都。

祭り、商い、神社仏閣

脈々と伝わる水と言い伝え。

第3回世界水フォーラムの模様も伝えながら  
京都の謎解きに「遊」びます。



日本の氾濫風景ではありません。  
バンコクの水路には電信柱があって、  
まるで日本の道路が冠水したように感じます。

自他ともに認めるタイ好きの私を癒してくれるのは、チャオプラヤ川のほとりでノンビリいたたく朝食。いつも優雅に流れているように見えた川には、その上での人々と水との密着したくらしがあることに初めて気づいた。バンコク駐在のママムに伝えたいものである。(ゆ)

バンコクに足を踏み入れて以来、タイ料理にはまり、本場「屋台」の味を探し求める今日このごろ。タイの研究者には怒られるかもしれないが、タイを通して日本の「水防とリスクコミュニケーション」を考えた。怖いモノ知らずの企画ではあるが、リスクを引き受けるには素人の総合力も大切と異国で実感させられた。(中)

## 水の文化

### Information

#### 里川情報の募集をしています

本誌では近く、暮らしと川とのかかわりに光をあてた「里川」(里山ではありません)の特集を企画しています。全国で里川活動に携わっている方の情報がありましたら、お寄せください。

#### 『水の文化』に関する情報をお寄せ下さい

本誌『水の文化』では、今後も引き続き「人と水との関わり」に焦点を当てた活動や調査・研究などをご紹介します。ユニークな水の文化学習活動を行っている、「水の文化」にかかわる地域に根差した調査や研究を行っている、こうした情報がありましたら、自薦・他薦を問いませんので、事務局まで情報をお寄せください。

#### 水の文化 バックナンバーをホームページで

本誌はモノクロで皆様に配布しておりますが、写真をはっきり見たい!というご要望にお応えし、11号からはホームページにてカラーでバックナンバーを提供しています。すべてダウンロードできますので、いろいろな活動にご活用ください。

#### ホームページアドレス

<http://www.mizu.gr.jp/>

#### 編集後記



水上バス停留所の浮棧橋(左)が陸(右)よりもはるかに高い。雨期の満潮時、バンコク市内は潮の影響を強く受ける。

水の文化学習で訪れた輪中地帯は、私の地元近く。何度も行っただけがあり、よく知っていると思いましたが、実は知らないことばかり。身近な所にも発見や驚きは多いものです。昨年11月に行った編集部のタイ取材では多くの方にお世話になりましたが、中でも、あちらこちらと尋ね回る妙な旅行者達の通訳を1週間に渡って努めていただいたトゥムさん、スワタナ氏のインタビュアーをアレンジしていただいた法政大学大学院・岩城考信さんにこの場を借りて御礼申し上げます。(日)

ミツカン水の文化センター機関誌

## 水の文化

第13号

ホームページアドレス  
<http://www.mizu.gr.jp/>

禁無断転載複写

発行日 2003年(平成15年)2月

企画協力 嘉田由紀子 京都精華大学教授 琵琶湖博物館研究顧問 水と文化研究会世話役  
古賀邦雄 水・河川・湖沼関係文献研究会  
陣内秀信 法政大学教授

編集 小林 信 日比野容久 小林夕夏 中庭光彦 賀川一枝 賀川督明

発行 ミツカン水の文化センター  
〒475-8585 愛知県半田市 中村町2-6  
株式会社ミツカングループ本社 広報室内  
Tel. 0569(24)5087 Fax. 0569(24)6353

お問い合わせ ミツカン水の文化センター 東京事務局  
〒143-0016 東京都大田区大森北2-2-10・4F  
Tel. 03(5762)0244 Fax. 03(5762)0246